

飯綱町東黒川地区には、地区中央の小山の上に天^{てん}白^{ぱく}社があります。この境内の続きに薬^{やく}師^し庵^{あん}や大^{だい}日^{にち}堂^{どう}、七^{しち}観^{くわん}音^{いん}、稲^{いな}荷^か社^{しゃ}があります。そして、それらのお堂の前に、胸の高さでの直径が83センチもあり、地元の方のお話では樹^{じゆ}齡^{れい}300年をこえるという見事なイチイが立っています。そして、イチイの木の根方に、高さ90センチの石の赤^{せき}地^ち蔵^{ざう}が祀^{まつ}られています。お地蔵様は元^{げん}禄^{ろく}11年（1698）のものとのことで、お顔が赤色に塗^ぬられています。8月23日～24日はお地蔵様の縁^{えん}日^{にち}にあたり、毎年この23日の晩には、赤^{せき}地^ち蔵^{ざう}とイチイの樹^{じゆ}を中心^{ちゆうしん}に、その周^{しゆう}りで盆^{ぼん}踊^{どう}りが行^{おこな}われます。

この地区では、盆^{ぼん}踊^{どう}りの会^{かい}場^{じやう}準^{じゆん}備^びは地区の公^{こう}民^{みん}館^{かん}の役^{やく}員^{いん}さんを中心^{ちゆうしん}に行^{おこな}います。お地蔵様は子^こどもを^{まも}る菩^ぼ薩^{さつ}でもあるので、当^{たう}夜^やには大^{だい}人^{にん}向^むけの飲^{いん}み物^{ぶつ}だけ^{だけ}でなく、子^こども^{ども}た^ち向^むけのアイ^あス^いク^くリ^りー^ーム^むな^など^どが用^{よう}意^いさ^され^れま^ます。提^{ちゆう}灯^{とう}型^{けい}の電^{でん}灯^{とう}だ^だけ^けのや^やや薄^{はく}暗^{あん}い照^{しやう}明^{めい}の中^{ちゆう}で、灯^{とう}明^{めい}に照^{しやう}ら^らさ^され^れたお地蔵様^{ざう}を^ま囲^いむ盆^{ぼん}踊^{どう}りは素^そ朴^{ぱく}そのもの^{もの}です。夏^{なつ}祭^{まつり}りとは違^{ちが}って華^わや^やか^かさ^さはあ^あり^りま^ませ^せんが、逆^{さか}に夏^{なつ}の終^{しゆう}わ^わり^りを^ま感^{かん}じ^じな^なが^がら^ら踊^{どう}る光^{くわう}景^{けい}は、ひ^ひっ^っそ^そり^りし^した^た雰^{ふん}囲^い気^きの中^{ちゆう}に^にし^しみ^みじ^じみ^みと^とし^した^た風^{ふう}情^{じやう}が^があ^あり^りま^ます。

地^ち蔵^{ざう}盆^{ぼん}そのもの^{もの}は全^{ぜん}国^{こく}的^{てき}に行^{おこな}わ^われ^れて^てい^いる^るもの^{もの}で、と^とく^くに^に関^{かん}西^{せい}方^{ぱう}面^{めん}で盛^もん^んな^な行^{ぎやう}事^じである^{である}よう^{よう}です。他^た所^{しよ}では、縁^{えん}日^{にち}から日^{にち}を^をず^ずらし、その近^{ちか}く^くの土^ど曜^{やう}か日^{にち}曜^{やう}に行^{おこな}う^うこと^{こと}も^もあ^ある^るよう^{よう}です^{です}が、この^{この}地^ち区^くでは年^{ねん}に^に一^{いっ}度^どの縁^{えん}日^{にち}に行^{おこな}う^うと決^{けつ}め^めて^てい^いる^るた^ため、平^{へい}日^{にち}の夜^や